

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

平成30年 5月18日 (金)

2 確認箇所

- ・既設多核種除去設備
- ・増設多核種除去設備

3 確認項目

- (1) 既設多核種除去設備 (C) 共沈タンク pH計からの漏えい事象の処置状況
- (2) 増設多核種除去設備 (B) 共沈タンク pH計のスキッドバイパス流量調整弁からの漏えい事象の処置状況

4 確認結果の概要

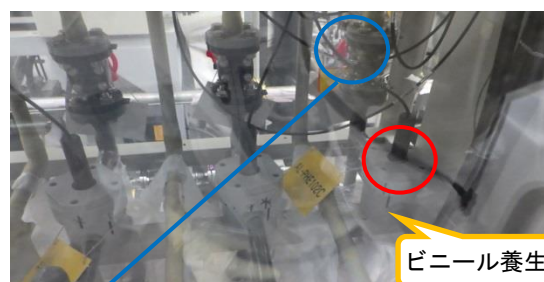
- (1) 既設多核種除去設備 (C) 共沈タンク pH計からの漏えい事象の処置状況について

5月16日、協力企業作業員が既設多核種除去設備共沈タンク pH計から水の滴下を発見した事象について、処置状況を確認した。

- ・確認時 (11時頃)、滴下はすでに停止しており、漏えい拡大防止対策として pH計下部をビニール養生していた。(写真1, 2)
- ・また、pH計の前後弁が「閉」になっていた。(写真3)



(写真1)



(写真2)

- ・写真1のpH計の内部の様子
- ・丸(赤色)は滴下発生箇所



(写真3)

丸(青色)を拡大して撮影した様子

(2) 増設多核種除去設備 (B) 共沈タンク pH計のスキッドバイパス流量調整弁からの漏えい事象の処置状況について

5月17日、協力企業作業員が増設多核種除去設備 (B) 共沈タンク pH計スキッドのドレンラインで水溜まりを発見した事象について、処置状況等を確認した。

- ・現場で作業していた東京電力社員によると、配管廻りの保温材を取り外し、漏えい箇所を特定したところ、漏えい箇所は、共沈タンク (B) pH計スキッドバイパス流量調整弁のグランド部であり、増し締めを行ったところ、漏えいが停止したとのことであった。(写真4)
- ・漏えい拡大防止対策として、当該弁をビニールで養生しており、当該弁下部に受けパンを設置していた。(写真5、6)



(写真4)



(写真5)

- ・写真4のスキッド内部の様子
- ・星印付近から漏えいが発生



(写真6)

5 プラント関連パラメータ確認

各パラメータについて、前日と比べ有意な変動は確認されなかった。